

天文学とプラネタリウム



第3回

高梨直紘 & 平松正顕

「プラネタリウム見学会」

天ブラでは、今までお互いに交流のなかった人種を引き合わせ、その結果として面白いアイディアが生まれることも目指しています。連載3回目の今回は、天ブラ主催のプラネタリウム見学会について紹介しましょう。

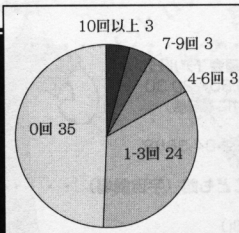
さて、いきなり問題です。天文学を志す学生は、プラネタリウムに良く通っている。○か×か。答えは右のグラフをご覧ください。これは「ここ3年間に何回プラネタリウムに行きましたか？」というアンケートに対しての天文学専攻の大学院生の回答です。この結果を見れば一目瞭然、ほとんどの学生はプラネタリウムに興味がないことがわかります。宇宙の謎を追い求める学生と、宇宙を多くの人に伝える場としてのプラネタリウム。この両者がお互いに交流がないなんて、なんとも不思議な感じがしませんか？

この両者が力を合わせることで、これまでとはまた違った面白い発想が生まれるのではないかな。この考えが「天ブラ」の活動のスタートになりました。そしてその協力の手始めとして、学生を集めてプラネタリウム見学会を企画して

います。過去に、葛飾区郷土と天文の博物館、川崎市青少年科学館、名古屋市科学館などを訪問し、活発な意見交換を行ないました。参加学生の多くは、プラネタリウムを見るのは子どもの時以来で、よい刺激になったようです。こういった見学会を通じてお互いに知り合うことで、協力して天文教室を行ったり、館の企画に参加したりといった活動も芽生えつつあるようです。

このプラネタリウム見学会は今後も継続して行ないます。次回は8月下旬に、プラネタリウムの新たな可能性の1つを見せてくれるアート集団、「雑貨団」の公演を見学する予定です。雑貨団の総帥さん曰く、「プラネタリウムに物語を与え、演技、音楽、映像でプロデュースする」……ほらほらなんか面白そうじゃありませんか？ 興味を持たれた方は、ウェブページをチェック！

高梨直紘 東大M2/天文学教育研究センター所属
平松正顕 東大M2/国立天文台ALMA推進室所属



ここ3年間でプラネタリウムに何回くらい行きましたか？「天文天体物理若手の会」という天文学を専攻する博士・修士課程の学生を対象としたアンケート結果。他の結果に関しては天ブラのウェブページに掲載されています。



世界征服の基礎はまず本郷から、ということで東大本郷キャンパスで「弥生観望会」を実行中の2人。左が平松、右が高梨。天体観測ドームの外壁にシミュレーション画像を投影して解説しています。東京の夜も捨てたものではありません。

● 雑貨団ホームページ
<http://homepage3.nifty.com/zakkadan/>

● 「天文学とプラネタリウム」ホームページ
<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/>